



「日本の桜」講演会

つくし野桜守りの会 渡辺啓三



「日本の桜」講演会は、おかげさまで盛会裡に開催することが出来ました。

下記は会員の中坪さん（記録）、小林さん、後藤さん（写真撮影）のご協力による同講演の概要です。

記

日時：平成19年3月24日（土曜日）午後1時30分～4時30分

場所：つくし野センター 2階ホール

講師：財団法人 日本花の会 花と緑の研究所 主任研究員 小山徹氏

参加者：61名

(1)財団法人”日本花の会”について：

小松製作所前社長河合良成氏により、日本全国に桜の花の名所を作ることを目的として、1962年に創設されました。現会長は河合良一氏、財団理事には、豊田章一郎氏、牛尾治朗氏、森川敏雄氏他、財界の方々が名を連ねています。

1969年茨城県結城市に約2万5千坪の農場を作って桜の苗木の大量生産を開始し、これまでに二百数十万本の桜の苗木を出荷しています。

尚、同農場の見本園には、国内外の桜350種類が栽培、展示されています。



“日本花の会”にはどなたでも入会できます。

会員には会報「花の友」の無料配布の他、“日本花の会”の主催する行事への優先参加、桜苗木の廉価提供等の特典があります。

入会希望の方は渡辺までご連絡下さい。

(2)桜についての基礎知識:

(イ)桜の種類は？

植物分類では、桜は、梅・桃等と同じく「バラ科」に属します。

大きく分けて”野生種”と、人工的に交配されてつくられた”園芸品種”に分けられます。原産地はネパールで、北半球に広く分布しますが、ネパールから東に向かった種は「花を鑑賞する桜」となり、西に向かった種は「実を食べる桜」として広まって行きました。日本の園芸品種としては、現在 360 種類以上が登録されていますが、野生種はヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガンザクラ、タカネザクラ、マメザクラ、カスミザクラ、オオシマザクラ、ミヤマザクラ、チョウジザクラの 9 種類で、それぞれに特徴があります。

*エドヒガンザクラ

エドヒガンザクラは長寿で、日本の天然記念物に指定されている桜の老木の大半がエドヒガンザクラです。

エドヒガンザクラ



*オオシマザクラ



オオシマザクラは、伊豆半島周辺に見られる成長の早い桜です。

また、その葉は柔らかく、毛が少ないので、塩漬けにして”桜餅”を包むのに使われています。独特の芳香は葉に含まれるサクラニン、クマリン等の成分によるものです。

オオシマザクラ

*ヤマザクラ

ヤマザクラ

ヤマザクラは日本古来の桜で、平安時代に「左近の桜、右近の橘」と云われた紫宸殿の桜はこのヤマザクラだったと思われます。

開花時には白い花と紅の芽のコントラストが美しく、昔の人は花ばかりではなく葉の新芽も共に賞でたようです。樹皮は工芸品に使われます。



(ロ)桜の木は、どうやってふやす？

種子から育てる“実生”と、“挿木”や“接木”でふやす方法があります。

桜には「自家不親和性^{じかふしんわせい}」があり、同じ桜の雄蕊と雌蕊の間では受粉しても実ができません。他の木の花粉を貰ってはじめて種子が出来るので、種子から育った若木は、実の生った親木とは同じものにはなりません。遺伝子の半分は他の木のものなのです。これにたいして“挿木”や“接木”は、元の木の形質を完全に引き継いでおり、いわゆる“クローン”です。

“実生”による若木が花を咲かせるまでには10年以上（場合によると20年も！）かかりますが、“挿木”や“接木”によるものは3～4年で花を咲かせます。



現在、日本の桜の90%以上がソメイヨシノと云われていますが、このソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガン桜の自然交配によって生まれた園芸種で、江戸時代末期に染井村（現在の東京都豊島区）の植木屋が接木でふやして広めたものです。従って、全国のソメイヨシノは皆同じ形質をもったクローンなので、同じ気象条件の下にある木は全部が一斉に咲いて、いわゆる「桜前線」を形成し、だんだんと北上して行きます。

(ハ)「お花見」は何時頃から始った？

「日本後記」という書物には、「嵯峨天皇の治世の弘仁3年（812年）2月に、神泉苑に幸して花樹を覽し、文人に命じて詩を賦せしめ、禄を賜ふことあり」とあり、これが記録に残っている一番古い「お花見」です。

下っては、「江戸8代将軍吉宗が、ヤマザクラを殊に好んで、飛鳥山で花見の宴を催した」との記録があります。

もともとは、一部の上流階級の楽しみで、一般庶民が「お花見」を楽しむようになったのは、町人が力を得た江戸時代以降のことと云われています。

(ニ)何故、日本人は桜が好き？

日本人が特に桜が好き理由としてはいくつか考えられますが、咲く時期が入学、卒業といった“人生の節目”にあたることも関係しているのかもしれませんが、また、「散り際のいさぎ良さ」も、日本人の心情に合っているのでしょう。

(ホ)桜の種類を見分けるには？

桜の種類を見分けるためには、花をひっくり返して、花の裏を見るのがキーポイントの由です。（ただ、「花の裏のどこをどう見て、どう見分けるか」については、専門的なお話で良く分かりませんでした。）

その他、花序のつくり、雌蕊の形状、萼片の形状、花の姿(一重、八重、半八重、菊咲き、等)、葉の形状-鋸歯(葉の縁のギザギザ)の違い-、蜜線の位置、等々により分類するそうです。

珍しい桜に出会って、その種類を知りたい場合には、花の会の小山さんの所までお持ち下さい。教えて頂けます。



(ヘ)桜(特にソメイヨシノ)を長持ちさせるには？

- 1 ソメイヨシノは成長が早く、巨大な樹冠を作るので、密植せずに十分な間隔を置いて植えること。
- 2 狭い植え枿にはではなく、根を張れる植栽環境を用意すること。
- 3 てんぐ巢病に侵され易いので、注意して早めに除去すること。
- 4 .コスカシバ、アメリカシロヒトリ等の害虫退治に注意すること。

* アメリカシロヒトリ退治の方法には、「農薬の動力噴霧」の他に、フェロモン・トラップによる方法があります。
これは、雌が雄を呼び寄せるホルモンを人工合成して用い、雄を呼び集めて殺す方法で、農薬によるアレルギー等の被害は出ませんが、生き残る雄もいて、それが交尾し繁殖させますので、一遍に根絶することは出来ません。数年かけて徐々に数を減らしていく方法です。

(ト)米国ワシントン・ポトマック河畔の桜の由来は？

明治 42 年 (1909 年) 当時の東京市長尾崎行雄氏は、荒川堤の桜 12 品種 3000 本を米国に贈りましたが、植物検疫に引っかかりサンフランシスコで全てが焼却されました。東京市は、あらためて明治 45 年 (1912 年) にソメイヨシノ、カンザン、ギョイコウ等 12 品種 3000 本を贈り、これがワシントンのポトマック河畔に植えられました。100 年近く経って大部分は代替わりしましたが、ソメイヨシノをはじめ約 100 本の当時の桜が今でも残っています。

講演終わり

尚、小山氏の講演に続き、「つくし野の桜の現状」及び「つくし野桜守りの会の活動状況」について渡辺より概略を説明しました。
内容は省略します。

以上